

”こころ”のふれあうフェスタ2022 作品展

17 宮崎県立美術館
R4.9/15～9/19
(台風のため18日と19日午前中閉館)

この作品展は、障がい者の自立及び社会参加についての県民の関心と理解を深めることを目的としたもので、今年で9回目となりました。令和元年より当支援センターが宮崎県と共に主催して行っています。この作品展が、その人の表現を通して社会参加を促すとともに、その先の人生の豊かさや地域での生きやすさにつながるきっかけの場、交流の場となるように目指しています。



会場の壁を1枚はずし、昨年引き続き、特別支援学校アート展とつながって展覧会開催しました。
作品数：133点
入場者数：877人
(台風のため1.5日閉館)

・作者や作品の紹介としてキャプションを作成し、その人の手形(任意)も一緒に展示しました。
・事業所訪問したところから、はじめての応募があり「良いきっかけになった」と嬉しい報告を受けました。
・俳句や短歌の応募者(視覚障がいの人と身体に麻痺のある人)の展示方法をサポートを行いました。
・メッセージカードを会場に準備し、その人に届け、作者と来場者のつながりをつくりました。

「作品展のうらがわ見よう」セミナー

R4.9/14

作品展はどうやっているんだろう?どんな準備をしているの?顔装するときには何を付けたらいい?など、支援センターがファシリテーターとなり、実際の展示現場(日通さんの仕事)を見学して、作品展の裏側を学びました。



参加者5人(個展の予定がある身体に障がいのある人と支援者、作品展を開催する文化施設の人とその行政の人が参加しました)

・公募展、グループ展、個展、企画展、常設展の違いや、美術館、ギャラリー、公民館などの会場の違い、何を目的にした展覧会なのか、審査があるのかの、予算、保険などを学びました。
・光(ライト)の具合、キャプションや作品展示の高さなどは、実際にダミーで並べてあるのを見て体感しました。
・展示方法から展覧会の想いまで、質問や意見交換しながら学びました。



まちなかアート化

支援センターから外に出て、宮崎のまちなかで芸術文化活動を普及します。宮崎県の多くの人に、この活動を知っていただくため、美術館やギャラリー以外での作品展示の機会創出、障がい者芸術文化の情報提供などを行い、障がいのある人が共に触れあう場を作ることとしています。

23 ふれあい喫茶あいあい (宮崎市総合福祉保健センター) アートトレーラーが連れて来たぞ!! まちなかアート化@あいあい R4.5月～R5.3月



支援センターが各事業所と喫茶「あいあい」をつなぎ、2、3か月単位で作品展を行います。キャプション作成や展示作業もアドバイスしています。

- 参加事業所
- 7 生活介護事業所 もあい
 - 13 阿波岐原通所センター
 - 10 アートステーションどんこや
 - 22 ポノ・ポノ

「展示の機会をありがとうございます。みんなでごはんを食べにきますよ」と、発表の場だけでなく、外出の喜びにもつながっています。

「コロナ禍で、あまりお客さんは多くはないけれど、絵画など作品が飾ってあると雰囲気がいい。」感銘対策により閉店期間中もあつたが、作品発表は続けています。

18 宮崎県総合博物館 アートトレーラーが連れて来たぞ!! まちなかアート化@みやかはく R5.1/27～1/30



博物館の屋外にある「民家園」(椎葉家)の敷地で作品展示とワークショップを行いました。障がいのあるアーティストは、自宅や事業所などで創作活動をしていることが多く、その人その人たちの日常の延長に表現として出てきたものを、古民家に集めました。その空間で、誰もが作品にふれあう場をつくることを目的としました。

- 参加事業所
- 4 風舎 つるまち
 - 7 生活介護事業所 もあい
 - 15 工房 あわい
 - 33 工房 赤い面
 - 6 障害者支援施設 うからの里
 - 14 アートステーションどんこや
 - 31 障害者支援施設 つよし寮
 - 35 障害者支援施設 つよし学園

アートなかま募集!!



アートなかまとは、宮崎県障がい者芸術文化支援センターと、協働体制及び企画委員を組織して取り組んでいます。全員の当事者、障がい者関係団体から宮崎県立視覚障害者センター職員、学識経験者として宮崎県立美術館と高鍋町美術館の学芸員、教育の分野から特別支援学校の教員、Fablabの代表、当支援センターで取り組んでいます。

アートなかまとは、宮崎県障がい者芸術文化支援センターと、協働体制及び企画委員を組織して取り組んでいます。全員の当事者、障がい者関係団体から宮崎県立視覚障害者センター職員、学識経験者として宮崎県立美術館と高鍋町美術館の学芸員、教育の分野から特別支援学校の教員、Fablabの代表、当支援センターで取り組んでいます。

→「こころ」のふれあうフェスタ作品展の受付をサポートしてくれたアートなかまの皆さん

→民家園で展覧会&ワークショップ時の会場サポートや写真撮影だけでなく、来場者とお話して会場を盛り上げてくれました!



・雨の日や風の強い日は、民家の中で展示するなど、その日その日に対応して展示しました。事業所や関係者だけでなく、散歩の人、ニュースやSNSを見て来られた人も多かったです。

入場者数：405人

木を削るアーティスト鈴木健太さんと木を削ってみようワークショップ R5.1/28

実際にアーティストが民家の庭で表現活動し、参加者と一緒に創作する(交流する)場をつくりました。
ワークショップ講師：鈴木健太(風舎つるまち)
参加者：11人(こども5人・大人6人)



自分の得意なところ(道具を使って木を削る)を通して、参加者と交流することが自然にできたワークショップとなりました。ものを削り上げるのではなく、壊していく、無くしていくことのおもしろさ共有もできました。

視覚障がいと鑑賞について

9 宮崎県立明星視覚支援学校 明星視覚支援学校を見学しよう R4.6/16

明星視覚支援学校は、明治43年設立の歴史ある特別支援学校であり、幼稚園、小学部、中学部、高等部、理療科があり、寄宿舎もあります。学校と美術授業の見学を委員の皆さんと行いました。
参加者：実行委員8人



・魚を表現するときは、美術の授業だけでなく、理科の時間に魚を知ってイメージをもちます。
・作品は触れることができるように展示しています。
・弱視の方には黒字に白文字やUDフォントを使います。

関係者のネットワークづくり

「障がい者の作品鑑賞について考える会」委員とは、「視覚障がいと鑑賞について」の事業を実施するために、協働体制及び企画委員を組織して取り組んでいます。全員の当事者、障がい者関係団体から宮崎県立視覚障害者センター職員、学識経験者として宮崎県立美術館と高鍋町美術館の学芸員、教育の分野から特別支援学校の教員、Fablabの代表、当支援センターで取り組んでいます。

委員との会議(10R4.7/4②12/16) 意見交換は、会議だけでなく、メールや電話、SNSグループも利用して行っています。

この事業のゴールはどこまで、だれでも楽しめる美術鑑賞ガイドをつくる!と委員の皆さんと共有しています。鑑賞の方法の1つに、「対話型鑑賞」があるよ。楽しいよ。発見があるよ。モヤモヤはいんだよ。みたいなソフト面を普及したく、定期的に対話型鑑賞の体験を提供していきます。



視覚に障がいのある人の芸術文化について考え、「美術館へ行く、作品を鑑賞する、感じる事ができる」ということが、日常生活の一部になることを目指し、様々な課題を共に解決していくことを目的としています。

鑑賞ツアー① 「はじめまして、いっしょに鑑賞しませんか?」セミナー R4.9/16

鑑賞の手引書「対話型アート鑑賞ガイド」を使って、視覚に障がいのある人と一緒に行う対話型鑑賞セミナーです。作品を前にして、感じたことや思ったことを話しながら、イメージからみる新たな発見やじっくり鑑賞する気持ちをお互いに共有しました。
参加者17人(見えにくい人5人、ガイドヘルパー3人、見える人9人)



実行委員がリーダーとなったグループを4つ作りました。まず、会場に入る前に自己紹介と作品展会場の様子(出入口や会場の大きさ、どんな作品があるのか、触れる作品があること)など、対話型鑑賞がスムーズにできるような時間を十分に取りました。

参加者の感想
・「見た目の固定観念があったが、4人でみると手の感触とか人の意見を聞くとか豊かになれる。」
・「話から作品を目の前にしてどんな気持ちになるかみんなでイメージしてみた。」
・「7年ではじめて美術館でこういった作品鑑賞をした、楽しかった!」

5 高鍋町美術館 企画展「加藤正 回顧展 発光と残像」の作品鑑賞と交流会セミナー R4.11/1

「対話型アート鑑賞ガイド」を使って、視覚に障がいのある人と対話型鑑賞セミナーを行いました。今回は高鍋町美術館で製作された触図と点字がいったいどんなサポートブックも併用して鑑賞し、鑑賞後に参加者と振り返りを行いました。
参加者12人(見えにくい人3人、ガイドヘルパー3人、見える人7人)



参加者の感想
・「普段のガイドの仕事とは違うので難しかった。作品をまじまじと見ることがなかったし、他のお客さんを気にして黙って鑑賞していたし、早く前に進んでいた。今日の様な鑑賞は初めてで楽しかった。」
・「鑑賞ガイドやサポートブックで話しやすかった。」

←「対話型アート鑑賞ガイド」は、鑑賞ツアーを行うごとに振り返り、再編集して使っています。

ちょっと、おじゃましますっ。 宮崎県障がい者芸術文化支援センターです! 2022



令和4年度 宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業 報告書
ちょっと、おじゃましますっ。宮崎県障がい者芸術文化支援センターです! 2022

発行日 2023年3月
企画・制作・発行 宮崎県障がい者芸術文化支援センター(アートステーションどんこや内)
岩切 明日香
〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4丁目23-1
Tel. 0985-27-2823 E-mail donkoyaj@moo.jp URL http://donkoyaa.moo.jp
Facebook http://www.facebook.com/Miyazaki.art.supportcenter

令和4年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業(令和4年度宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業)の助成を受けています。
表紙写真協力:アートステーションどんこやのメンバー

